

第42回京都府高等学校総合文化祭

郷土芸能部門プログラム



〈日時〉 令和7年11月2日(日) 開場:14時15分 開演:14時30分

〈会場〉 東部文化会館

京都府高等学校文化連盟郷土芸能専門部会長挨拶



今年は非常に長い間、厳しい猛暑が続いておりましたが、ようやく、日増しに秋の深まる気配を感じられるようになりました。この度は、京都府高等学校総合文化祭にご参加いただき、心より感謝申し上げます。今年も若き才能が集い、文化を創造し、発表するこの特別な機会を迎えられたことを大変嬉しく思っております。

この文化祭は、府内の高校生たちが日々の学びや活動の成果を発表し、互いに刺激し合う場となります。音楽、演劇、美術、文学など、非常に多くのジャンルの部門があり、その中でも郷土芸能部門は、各校の生徒たちが地域の伝統芸能を学び、表現し、発表することで、郷土の魅力を再発見し、共有することを目的としています。高校生たちの熱意と努力が、皆様に感動を与え、地域の文化への理解を深めるきっかけとなることを期待しています。

また、異なる学校や地域の仲間たちと意見を交わし、共に学び合うことで、より広い視野を持つことができる非常に貴重な機会でもあります。みなさんがこの場で得た経験や友情が、今後の人生において大きな財産となることも心から願っています。

最後に、文化祭の成功はみなさまのご協力によって成り立っています。ご来場いただいたみなさま、そして運営に携わってくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。共に素晴らしい時間を過ごし、京都の文化を再確認し、未来へとつなげていきましょう。

京都府高等学校文化連盟郷土芸能専門部

会長 安田 文彦

(京都橘高等学校長)

プログラム

1. 京都府立菟道高等学校「宇治田楽」
2. 京都府立南陽高等学校「マジック&ジャグリングショー」
3. 京都府立嵯峨野高等学校「口真似」
4. 京都光華高等学校「光響」
5. 京都廣学館高等学校「打学・拳禅一如」
6. 京都橘高等学校「呼響」



各団体・演目紹介

1. 京都府立菟道高等学校「宇治田楽」



団体紹介

京都府立菟道高等学校の第2学年の総合的な探究の時間で「郷土芸能・宇治田楽」を選択した生徒たちです。

演目紹介

平成13年(2001年)から宇治市民の手によって創作・復興されたきた市民の芸能である「宇治田楽」に関して総合的な探究の時間に学習している生徒5名が、宇治田楽まつり実行委員会の演者の方々から、毎週、笛・太鼓・踊りの指導を受けて、高校生として発表できる形にした演舞です。

2. 京都府立南陽高等学校「マジック&ジャグリングショー」



団体紹介

はじめまして、南陽高校マジック部です。現在、私たちは中学生13人と高校生7人で日々活動しています。大規模なイリュージョンマジックからテーブルマジック、ジャグリングまで、観客の方に幅広く楽しんでもらえるように、部員一人ひとりが日々練習と研究に励んでいます。地元の子ども会や高齢者施設などが主催する地域のイベントに呼んでいただき、練習の成果を披露しています。

演目紹介

今回の出演で披露させていただく内容は、マジックのネタに関わるのでくわしくはお伝えできません。しかし、実際にマジックを見たことがある人も、まだ見たことがない人もきっと不思議な体験ができると思います。ぜひ、楽しんでご覧ください。

3. 京都府立嵯峨野高等学校「口真似」



団体紹介

嵯峨野高校は「和敬清寂」という茶道の心を建学の精神とし、学科名を「京都こすもす科」とするなど京都の伝統文化を尊重しています。2009年、大蔵流狂言師茂山千五郎先生の御指導による狂言の取組が始まり、2016年には狂言部が発足しました。毎年12月に能舞台で狂言会を開催するほか全国高校生伝統文化フェスティバル等に出演してきました。現在、部員は2年生1人・1年生2人。今日は全員で「口真似」を演じます。

演目紹介

主人が太郎冠者に「良い酒を貰ったので、面白く飲める相手を呼んでこい」と命じます。ところが太郎冠者が連れてきた客は、酒癖が悪いことで有名な男。困った主人は、穏便にもてなして帰そうと、「おまえは行儀が悪いから、自分が言うとおりにするとおり真似をせよ」と言いつけます。すると太郎冠者は、主人の言葉や振舞いを、一言一句、そっくりそのまま客にむかって繰り返しはじめました。いったい、どういうことなのでしょう…？

読み仮名 和敬清寂(わけいせいじゃく)、大蔵流(おおくらりゅう)、

茂山千五郎(しげやませんごろう)、太郎冠者(たろうかじゃ)

4. 京都光華高等学校「光響」



団体紹介

京都光華高等学校和太鼓部は、平成19年に和太鼓同好会として発足し、神楽和太鼓部の期間を経て、新体制となる現在の和太鼓部となり7年目となります。校訓の「美しいひととなろう」を軸として、美しい姿勢・魅せる和太鼓を目標とし活動してきました。来年度から共学となるので、関西唯一の女子校和太鼓部としての最後の年となります。今まで積み上げてきた女子ならではの華やかさを、本日の舞台で精一杯表現していきます。

演目紹介

本日演奏します「光響」は、和太鼓奏者の加藤秀明さんに作曲して頂いたオリジナル曲です。京都の町に射す様々な光を太鼓の響きで表現します。東山から朝日が昇る静謐から始まり、人々が目覚め町に活気が溢れます。その後、空に暗い雲がかかり、小さな光が集まり出し、やがて大きな稲光となります。雷の語源は「神の鳴らす音」。雷神様の太鼓のような迫力のある音で曲を締めくくります。ぜひ、物語を想像しながらお楽しみください。

読み仮名 光響……こうきょう

加藤秀明……かとうひであき

静謐……せいひつ

5. 京都廣学館高等学校「打学・拳禅一如」-



団体紹介

京都廣学館高校和太鼓チーム『空』は、2016年に芦原空手部の文化的活動としてスタートし、武道と和太鼓の融合を試み、新しい取り組みに挑戦してきました。『和太鼓飛龍』のプロ和太鼓奏者：及川 耀平（おいかわ ようへい）氏による指導の中で、和太鼓を打つ姿勢から基本打法、さらに和太鼓の高い技術に触れることで、自己と向き合い、他者と協調することの大切さを学び、日々精進しています。

演目紹介

1曲目の『打学』は、和太鼓の基本打法を中心におき、安定した打法を修得するための入門曲です。
2曲目の『拳禅一如』は、少林寺拳道の教えにおける重要な概念の一つで、心身の統一を目指すという意味があります。和太鼓と少林寺憲法の演舞との融合という新たな演出を取り入れた曲となっています。作曲者は、指導者の『和太鼓飛龍』のプロ和太鼓奏者：及川耀平氏で、京都廣学館高校和太鼓チーム『空』のオリジナル曲です。

6. 京都橘高等学校 「呼響」



団体紹介

私たちの学校は、水と緑に恵まれた歴史の町、京都伏見にあります。文武両道を掲げ、学習にも部活動にも力を入れています。吹奏楽部、女子バレーボール部、男子サッカー部、陸上競技部が全国の舞台で活躍しています。太鼓部は1982年に太鼓サークルとして発足し、現在は京都橘中学校・高等学校太鼓部として活動しています。「心は一つ」を合言葉に、基礎基本を重んじ、日々活動に励んでいます。香川 悠文では優良賞を受賞しました。

演目紹介

本楽曲「呼響」は本校コーチ北村多喜雄先生のオリジナル曲です。モンゴルの大草原を舞台に様々な展開が繰り広げられる様子をイメージした曲となります。雄大な草原を篠笛と二胡のハーモニーで、草原を駆け抜ける馬の軽快なリズムを鈴太鼓で、さらに吹き荒れる自然の猛威を大太鼓と鉦桶で、そして最後の全員演奏では、馬に乗り大草原を颯爽と駆け抜ける様子を表現します。部員の爽やかで力強い表現、演奏に注目してお聞きください。